

○お父さんは窓の戸をはねあげて、外を見ましたら、一つの馬車に大勢、人が乗つて駆けて行きました、さー何が乗つて居たでせう？

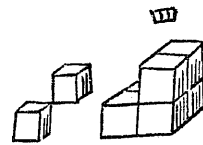
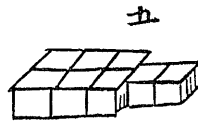
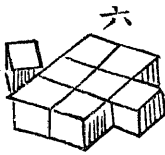
是が馬車に是が馬ですよ、二匹居るでせう(4)

此馬車に七福人が乗つて居ましたよ、そして大きい聲で「オイ、今度は太郎ダヨ」、「ソレカラ向フノ家ノ三郎サ」

「其次ハ此處ノトムとメリーだ」ナンテ云ツて馬車は駆けて行きました、

お父さんは「何の事だ」と云ひながら寝てしまいました

わたしたの朝早く起きましたらトムの枕の元に大きな尻と、メリーの枕元にはき



れいな羽子板が「お年玉となつてありましたので二人は大層喜びました(5)
是が羽子板で是が奴奴ですよ(6)

適材教育と幼稚園

左の一篇は伊澤修二氏の談話せられたるを日本の小學教師記者が筆記して該誌に載せられたるを参考の爲め轉載せり (記者)

人の天賦の性質及境遇上、將來如何なる業務に就くのが、よりよく成功し、よりよく幸福であるかといふことを豫見して教育することで出來たならば、これほど有功な教育はなからうと信ずる、處が實際には天稟の性能及境遇に悖は反して教育することが澤山にある。例へば生來醫者

として適當なものが、法律學の修業をなし、商人としての才幹あるものが、官吏たるの教育を受け、若くは工業に適すべきものが、哲學の研究に従事するといふ例は、世間乏しくないことであらう。是等の人々にあつては、何れも不成功に終りて、不幸に世を送ることになるのである。夫故に如何なる人には如何なる職業が適應するかといふことを、豫め判定して、教育を施したならば、是れに勝る有功の事業はあるまいかと思ふのであるが、是れは神か聖人なれば格別、普通の人間には容易に知り得ないことである。さりとて、一向之を顧みぬといふのは、まことに不親切極まる次第である。自分はこの問題を解決せんとして今日まで研究した結果では之を系統的に説明することが出来ないで、心中漠然として浮んで居ることがある。此の

適材教育のことは既に後進の若手教育者にも語つたことがあるが、其の人々等も自分等と同じ希望を抱き、種々研究の結果を實地に試験して見やうといふ程度に達して居るのである、开は何であるかといふに、之は幼稚園教育に基礎を置いたのである。抑も幼稚園は人生第一着の關門であつて、所謂父母の膝下を離れて社會に出づる門出の場所であるから、こゝに於て小兒の特質を研究するの

が、其の目的を達する唯一の手段であるかと思ふのです、自分は幼稚園のことにつき、しばしばその歴史、沿革等を考査し尙現狀を觀察して見たが、今日、我國にて行つて居る幼稚園の仕方は、要するにフレイベル式である。このフレイベル式は、歐羅巴の社會及家庭の事情に適應せるも日本には如何のものにや、尤も中には日本化せるものも

ないではないが、その多くはソツクリ西洋の型であると思ふ。現在、日本の幼稚園は西洋の社會家庭の事情には適するかも知れぬが、今の日本のそれには不適當である。どうしても今後は、日本の社會及家庭に適する所の幼稚園が生れなければならぬ。例へば今日の幼稚園では、大概、小兒を椅子に腰かけさせて居るが、家庭では全く之と反對に疊の上に座らせて居るのが通例である。座つて居る習慣のものを急に椅子によらしむるのは軟弱な小兒の爲に極めて有害である。成人でも、長く椅子によつて居ると、病を引き起すものである。彼の寄宿舎等にて脚氣患者を生ずるが如き多くは腰をかけて居るのよるといふことである。是故に小兒を椅子によらせるのは、大に考へものである。さりとて、幼稚園の椅子を全廢して座らせる

といふことも、今の社會の事情に適しないことである。何となれば、今の小學校は全然腰掛主義である。小學校の腰掛主義を改めるといふのは、到底出来ることではないから、多少、幼稚園に於て腰掛によることを慣れしむる必要があるのである。故に幼稚園では極端の腰掛主義も亦疊主義も共に當を得て居らない、此の兩端を折衷した兼用主義が、最も家庭學校の事情に適することと思ふ、これは、誰の目にも、よく知れ切つた事であつて其の一例に過ぎぬが、他にも之に類似のことで改良すべき點が多々あるのであらう。

ところで、自分が、近き將來に於て、幼稚園を設立して見たいと思ふのは、勿論、以上指摘したやうな短所を補正して行く積りではあるが、其の主目的とすることは、各人の性質境遇に應じて適當なる

